

第 1 学年道徳指導案

平成 17 年 10 月 28 日 (金) 1 校時
1 年 4 組 (男 15 名 女 12 名 計 27 名)
指導者 高橋 昌枝
大橋 文子
(すこやかサポート)

- 1 主題名 自分の力で (1 - (1) 節度・節制、自立)
- 2 資料名 しまのおさるたち (出典 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第 1 学年及び第 2 学年の内容項目 1 - (1) は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」となっている。基本的な生活習慣を身に付け、節度のある生活ができる児童を育てようとする内容項目である。これは、第 3 学年及び第 4 学年の内容項目 1 - (1) の「自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。」に発展し、第 5 学年及び第 6 学年の内容項目では、1 - (1) 「生活を振り返り、節度を守り節制に心掛ける。」に統合していく。

基本的な生活習慣をしっかり身に付けることは、人間形成において極めて重要なことであり、この期に身に付けた生活習慣は、生涯にわたってあらゆる行為の基盤になるものである。他人に依存した生活の中では、自分で考え積極的に活動できる真に自立した人間は育たない。

低学年の段階においては、健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなどの具体的な指導を通して、わがままをしないで規則正しい生活をするのが大切だということに気付くようにしていくことが必要である。特に「自分のことは自分でする」ことは、集団生活を営む私たちにとってもっとも基本的なことであり、低学年のうちから身に付けていかなければならない大切なことである。自分でやらなければならないことや自分でできることを、他に依存することがないように、自立心を養わせ、自主的な心を育てていきたいと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、入学してからさまざまな活動を経験し、学校生活に慣れてきた。それに従って、活発になり、興味を持ったものについては何でもやりたがる傾向にある。清掃や給食当番活動も手順を覚え、自分たちの力で行動している。しかし、困難なことや給食でこぼした時の後始末などの面倒なことについては途中で投げ出し、他の人の援助を期待する気持ちも強い。また、学習に対して友達や教師に頼り、自分の力で考えようとしなかったり、その大切さに気付いていなかったりする。家庭での基本的な生活習慣の様子についてアンケートをとった結果、「道具そろえ」や「洗顔」「入浴後の体ふきや着替え」などの基本的なことを家族に手伝ってもらっている児童が 4 割程度という実態もある。

そこで、自立することの大切さに気付かせ、他人に頼らず自分でできることは自分でやろうとする気持ちを育て、節度ある生活をさせたいと考えた。

(3) 資料について

本資料は、力が強く親切な「だいきちざる」に日頃から頼ってばかりで、木登りも走ることもうまくできない「しまのおさるたち」の話である。ある日、「だいきちざる」が向こうのしまにでかけたとき、大嵐で帰れなくなった。さるたちは、自分たちでは食べ物もとれず、ただうろうろ歩き回るだけだったという内容である。親切な「だいきちざる」のおかげで楽に暮らしていたさるたちの気持ちや、嵐の後、食べ物がなくなり不安な気持ちになっているさるたちの気持ちに十分共感させながら、他人に頼ってばかりでは自立することができず、自分でできることは自分の力ですることの大切さを理解させるのに適した資料である。

(4) 授業の構想について

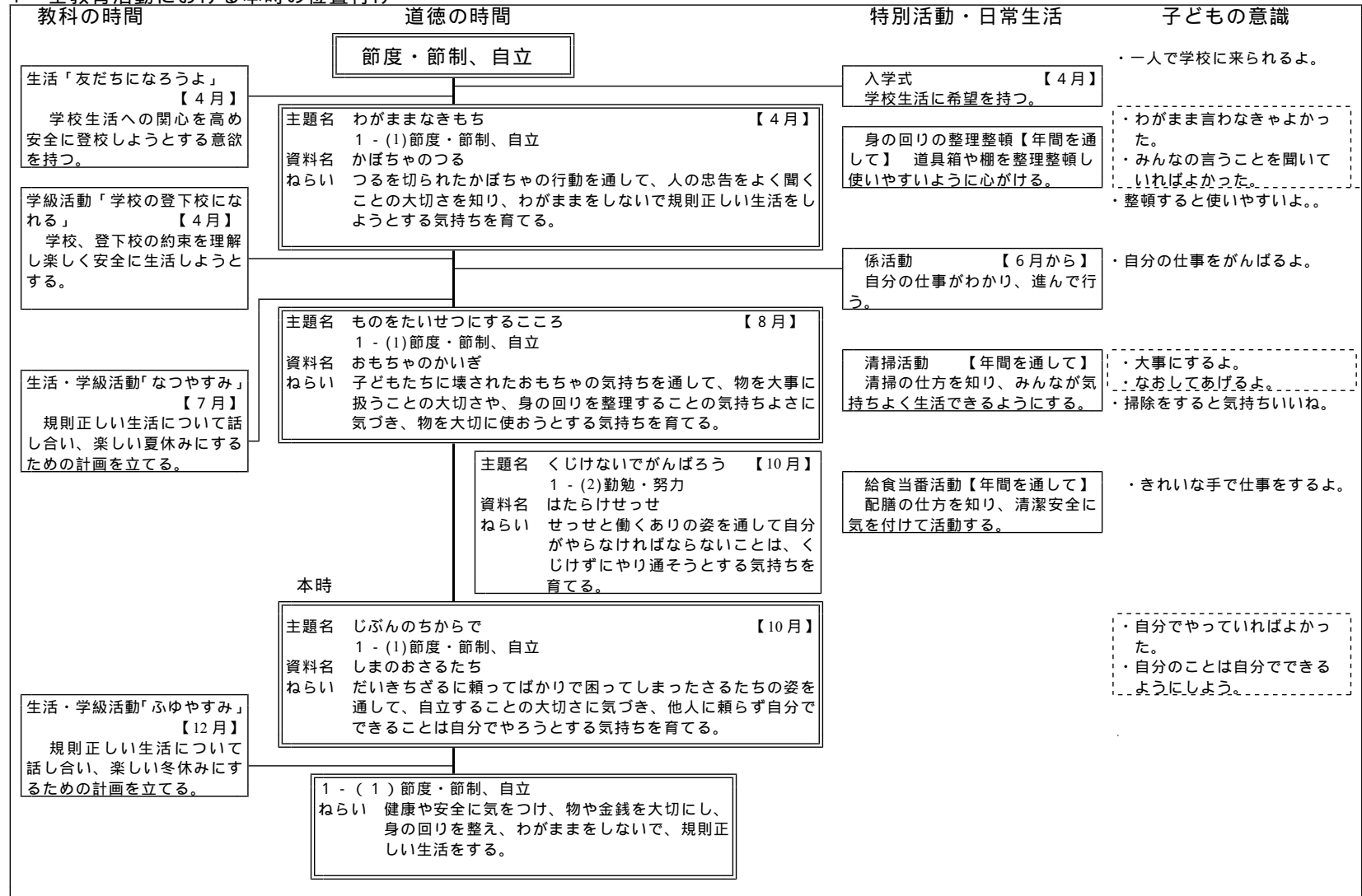
本時は、表現活動を取り入れて授業をすすめていく。

「気付く」段階では、家や学校での生活の様子についてのアンケートを活用し、価値の方向付けを図りたい。

「深める」段階では、だいきちざるの親切に甘えて何でもやってもらっていたことは自分自身でできることであり、当然自分の力でやらなければならないことであることに気付かせる。価値の理解を深めていくために、表現活動を行うことで実感を伴って理解させたいと考える。「だいきちざる」が帰ってこられなくなって、うろうろ歩き回る「さるたち」の様子を劇化し、自分たちでは何もできないことや途方に暮れる気持ちを十分感じとらせていきたい。さらに、それは人に頼ってばかりいて怠けていたことが原因であることに気付かせ、自分でできることは自分ですることの大切さを理解させていきたい。

「見つめる」段階では、自分自身の中にも「自分の力ががんばる気持ち」があることに気付かせ、認め励ましていきたい。「まとめる」段階では、自立心の強い児童の事例を、家庭からのメッセージで紹介し、意欲を高めていきたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい だいきちぎるに頼ってばかりいたために困ってしまったさるたちの姿を通して、自立することの大切さに気付き、他人に頼らず自分でできることは自分でやろうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気 づ く 7 分	<p>1 日頃の自分の生活の様子を思い出す。</p> <p>自分でやらなければならないことは、何ですか。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、学習のねらいを確かめる。 このお話を読んで、どう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道具そろえ ・着替え ・遊んだ後の片付け ・顔洗い <ul style="list-style-type: none"> ・だいきちぎるは親切だな。 ・自分で食べ物をとってあげればよかったのに。 ・困っただろうな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートはどの児童も落ち着いて話を聞いたり考えたりできるように支援する。 ・基本的な生活習慣についてアンケートの結果を提示して、価値の方向付けをしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・困ってしまったしまのおさるたちへの感想をもとに課題をたてる。
7 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>うろうろ歩きながら、しまのおさるたちはどんなことを考えたでしょう。</p> </div>		
深 め る	<p>3 「しまのおさるたち」の気持ちを考え、話し合う。</p> <p>だいきちぎるに何でもしてもらっていたさるたちはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>食べ物をどっさりおいてだいきちぎるがでかけていく時、さるたちはどんな気持ちで見送ったでしょう。</p> <p>うろうろ歩きながら、しまのおさるたちはどんなことを考えたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんもしなくていいから楽だな。 ・だいきちぎるはやさしいな。 ・だいきちぎるがいてくれて助かるな。 ・だいきちぎるは親切だな。 ・いつも世話をしてくれてありがとう。 <ul style="list-style-type: none"> ・早く帰ってきてね。 ・気を付けてね。 ・食べ物をたくさんとってくれてありがとう。 <ul style="list-style-type: none"> ・だいきち早く帰ってきて。 ・困ったなあ。 ・おなががすいたよう。 ・誰か助けて。 ・木の実をとりたいな。 ・木に登る練習をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では何もしなくてもいいことをつかませ、だいきちぎるに頼り切っているさるたちの気持ちに共感させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・でかけることになっても、自分たちでは何もしようとは思わないさるたちの気持ちをおさえさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をさせることで、自分たちでは何もできない状況やどうしていいのかわからず困り果てた気持ちを感じ取らせていきたい。そ

31分		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でしなくちゃだめだ。 	<p>の際、スムーズに劇化できるようサポートの教師がさる役になり支援する。さらに、困ったという状況を嘆くだけではなく、これからのことを考えさせることで、他人に頼らず自立することの大切さについても気付かせていきたい。</p>
見 つ め る 5 分	<p>4 今までの自分を振り返る。 人に頼らないで、自分の力でがんばったことは何ですか。その時、どんな気持ちがありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で髪を洗うことができてうれしかった。 ・やればできると思った。 ・またがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にも「自分の力でがんばろう」という心があることに気付かせ、自信をもたせたい。
ま と め る 2 分	<p>5 まとめをする 人に頼らずに自分の力でがんばっている児童のことを教師が紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私も、自分で布団をたたんでみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立心の強い児童の事例を、家庭からのメッセージで紹介し、意欲を高めたい。

しまのおさるたち

だいきちざる
ちからがつよい
やさしい
しんせつ

木の実をとってま
らっている絵

なんでもとってもらい
なにもしない
すこしもこまらない

・らくだなあ。
・たすかるなあ。
・やさしいなあ。

たべもの どころり
むこうのしまへ

食べ物がなくなり
困っている絵

おおあらし
たべものがない
ただ うろつろ

・おながすいた。
・こまったなあ。
・はやくかえってきて。


・きのみをとってみたい。
・きのぼりのれんしゅうをしよう。
・じぶんでやらなくちゃだめだ。

じぶんのちからで

7 資料分析

(1) ねらい だいきちぎるに頼ってばかりいたために困ってしまったさるたちの姿を通して、自立することの大切さに気づき、他人に頼らず自分でできることは自分でやろうとする気持ちを育てる。

(2) 資料名 しまのおさるたち (出典 学研)

<p>主な場面</p>	<p>だいきちぎるにたのんで、しまのおさるたちは何もしなかった場面</p>	<p>だいきちぎるが向こうのしまに行く場面</p>	<p>だいきちぎるは帰れなくなり、おさるたちはうろうろ歩き回る場面</p>
<p>把握すべき状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とおいしまにさるがたくさん。 ・だいきちぎるというちからがつよくしんせつなさるがいた。 ・じぶんたちはなにもしなかった。 ・すこしもこまらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あるひ、だいきちぎるはむこうのしまにようじででかけることに。 ・たべものをどっさりとおいてでかけていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおあらしになり、だいきちぎるはかえれなくなった。 ・たべものがなくなり、こまってきた。 ・どうしたらいいかわからずうろうろあるきまわるだけ。
<p>主人公の心の動き</p>	<p>感謝 信頼</p> <p>依頼心 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんたちはなにもしませんでした。 ・すこしもこまらなかったのです。 	<p>感謝 信頼</p> <p>依頼心 怠惰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・るすのあいだのたべものをどっさりとおいてでかけていきました。 	<p>自立</p> <p>不安 依頼心 反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おなかがすいたなあ。どうしよう。」 ・「もううごくのも、いやになったよ。」 ・ただ、うろうろあるきまわるだけでした。
<p>児童の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも世話をしてくれてありがとう。 ・だいきちぎるは親切だな。 ・だいきちぎるがいてくれて助かるな。 ・だいきちぎるはやさしいな。 ・何もなくていいから楽だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たべものをたくさんとってくれてありがとう。 ・気を付けてね。 ・早く帰ってきてね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でしなくちゃだめだ。 ・木に登る練習をしよう。 ・木の実をとりたいな。 ・誰か助けて。 ・おなかがすいたよう。 ・困ったなあ。 ・だいきち、早く帰ってきて。
<p>発問</p>	<p>だいきちぎるに何でもしてもらっていたさるたちは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p>	<p>食べ物をどっさりおいてだいきちぎるがでかけていく時、さるたちはどんな気持ちで見送ったのでしょうか。</p>	<p>うろうろ歩き回りながら、さるたちはどんなことを考えたでしょう。</p>